

平成28年度 学校評価総括表（徳島市内町小学校）

1 学校教育目標 校訓「至誠」の精神のもと、互いを大切にしあい、心豊かにたくましく生きる児童の育成

2 本年度の重点目標：笑顔いっぱい 元気いっぱい 夢や希望に向かって みんなで伸びていく学校

- (1) 命を大切にしよう (2) あいさつをしよう (3) きまりを守ろう
 (4) あたたかいことばが溢れる学校 (5) いっしょうけんめいに勉強や運動に励む学校 (6) 美しい学校

3 本年度重点推進事項

- (1) 子どもの学び合いを大切にした学力・体力の向上
 (2) 安心して学べる学級・学校づくり
 (3) 信頼される学校づくり
 (4) 信頼される教職員集団

4 総括表

領域	自己評価				学校関係者評価			
	評価項目	評価の観点	具体的目標	評価及びその理由	学校関係者の意見	次年度への改善点等		
学校	学校経営方針	①重点目標の児童や保護者への周知 ② 達成に向けた具体的な実践	①「内町小学校便り」「ホームページ」「朝会での話」「朝の会」「帰りの会」等で周知する。 ②学校が楽しいと感じる児童の割合を95%以上。	①ホームページや学校だよりには必ず記載したり、朝会等で重点目標に関する話をする事により、保護者や児童に浸透してきている。 ②児童94.2%、保護者97%まで向上してきた。	B	○学校運営がよくできている。 ○プロセスを大切にし、PTAとも更にコミュニケーションを図ってほしい。	①学校だよりやホームページへの掲載のほかにも、児童や保護者の常に目に入る所への掲示やPTA総会での説明等工夫を継続的に行っていく。 ②全教職員で児童一人ひとりによりきめ細やかな支援や指導ができるように情報を共有していく。	
	開かれた学校	①情報発信 ②学校・保護者・地域の相互理解と連携の推進	①学校HPの更新回数を増やす。 ②「学校が保護者に出す文書・連絡などはよくわかり適切である」「学級（学校）の様子や学習内容などを、学校便りやホームページなどによってよく知ることができる」で85%以上にする。 ③「学校は、地域と連携して教育活動を進めようとしている」と思う保護者や地域住民の割合を80%以上にする。	①ほぼ毎日更新できた。 ②文書・連絡については96%、学級（学校）や学習内容については、91%であった。 ③95%で達成。総合的な学習等で地域に出向いたり、地域の方や保護者に来てもらい歴史や内町のすてきな人を学習した。				A
	学級経営	一人一人を大切にす学級経営の実践	①「なにか困ったときに、先生に相談できますか。」という質問項目を入れ、実践の改善に役立てる。 ②「学校は、子ども一人一人を大切に、互いに認め合う学級・学校づくりに取り組んでいる」と思う保護者90%以上にする。	①児童77%で肯定的評価を得たが、23%の児童があまり当てはまらないという結果であった。 ②保護者95%で達成できた。	B	B	①子どもの性格で困ったことを先生に言うのが苦手な子どももいると考えられるが、23%は気になる。更にきめ細やかな配慮等に努めてほしい。	①子どもの実態把握に努め、一人一人の教育的ニーズに対応した支援を行っていく。 職員同士で情報交換を密にしながらたくさん目の子どもたちを見ていく。
	教職員の資質向上	授業力向上 児童理解の推進	①わかる授業を展開するため、授業研究会を行う。 ②「わかる授業に努め、基礎的な学習の定着が図られるように取り組んでいる」と思う保護者80%以上にする。	①ICT機器の積極的活用を全クラスで進めてきた。道徳・特別活動・図工等の研究授業や研修会を実施した。 ②86%で達成できた。	B		①授業のみならず学校生活全体で、子どもたちの話す力（表現力）を伸ばすため話し合う楽しさや問題解決できる成就感を高めていく。	
施設環境整備	安全で美しい 学校環境の整備	①施設設備が整備され、安全に配慮ができてきている。 ②校庭、教室などにごみがなく、花壇に花のある学校にする。	①危険箇所の発見に努め、早急な対応に努めることができたが、改善箇所が残っている。 ②落ち葉の季節などに登校途中で自主的に落ち葉等を拾う児童が増えてきている。 6年生の奉仕作業や毎日の掃除等の成果である。	A	○校舎の外壁の塗り替え等が必要である。	①安心・安全な学校環境に更にしていくために、児童の目線にたった安全点検及び危険箇所の早期発見に努める。		

自己評価					学校関係者評価	次年度への改善点等
領域	評価項目	評価の観点	具体的目標	評価及びその理由	学校関係者の意見	
教育活動	学力向上	基礎基本の定着 家庭での学習習慣の定着	①「勉強(授業)がよくわかる」児童を90%にする。 ②「家では毎日だいたい時間を決めて、勉強や宿題をする」児童を85%以上に、「家庭で毎日決めた時間に勉強している」と思う保護者を85%以上にする。 ③読書習慣について、児童65%以上、保護者60%以上。	①児童96.7% ②児童は、85%。保護者は、80% ほぼ具体的数値目標に近づいてきている。 ③児童70%、保護者65%。前年より両者とも5ポイント以上向上した。毎週水曜日の全校読書により読書習慣が学校・家庭でついてきている。	A	○人前で自分の意見を発表する力はこれからの社会に必要な力であるので、ぜひ伸ばしてほしい。 ①小集団での話し合い活動の楽しさを実感させるところや学級での安心感を高めること、話し合いの時間の質と量を工夫する。 ②自主勉強等での学習の仕方や宿題の出し方等を工夫していく。 ③次年度も全校読書の時間を設けて実践していく。
	心の教育	感謝の気持ち 思いやりの気持ち 自己肯定感の高揚	①「友達に優しく思いやりのある行動ができていますか。」と思う児童を90%以上にする。 ②「自分のいいところに気付いていますか」と考える児童を85%以上にする。	①児童85%、保護者96% ②児童65% 昨年度より10ポイント減少したが、高学年になるにつれて自己肯定感は高くなっていた	B	○「内町あったかスマイルツリー」の取り組みはとてもよい。継続して取り組んでほしい。 ○先生方の自己肯定感が大切。教職員自身がプラス思考でいってほしい。 ①道徳教育や人権教育のさらなる充実と体験活動の関連を更に図る。 ②学級学校での児童の活躍の場を増やす工夫や教師の肯定的な声かけ等を担任だけでなく全教職員で継続する。
	生徒指導	望ましい生活習慣の育成 仲間づくり	①「自分からあいさつする」児童を95%以上にする。 ②「交通ルールを守っている」児童を95%以上、「廊下階段を走らず、右側を歩く」児童を65%以上にする。 ③全校でいじめを許さない、させない、見逃さない。	①児童84% 保護者は、78% 地域の方92% ②交通ルールに関しては、児童98%、廊下階段に関しては、61%であった。91%の保護者は、ルールやマナーをおおむね守れている ③毎月「なかよしアンケート」を実施、管理職への報告と対応がとれた。また、アンケートは年間を通して毎月実施できた。	B	○なぜそのきまりを守る必要があるのか、子どもたちにきちんと説明することが大切だと思う。 ②廊下・階段を走らず、右側を歩く児童を増やす取り組みを全教職員で取り組み、自他を大切にする児童を増やしていきたい。 ③いじめやトラブルに関しては、早期発見・早期解決に向けて、毎月「なかよしアンケート」の実施を継続していく。
健康・体力作り	早寝早起き朝ご飯 運動習慣の改善や定着化	①「早寝早起き朝ご飯」の重要性を、授業実践や学校からのたよりなどを通じて啓発する。 ②水泳検定、縄跳び検定、駅伝等の体育的行事への参加や外遊びの励行、そして徒歩通学のすすめを行い、家庭との連携を図りながら体力作りに努める。	①早寝早起き朝ご飯の習慣が定着してきている。 ②外遊びに関しては、89% 放課後や休日での運動に関しては、前年より4ポイント減少したが、様々な活動を通して、運動習慣の定着を図ることができてきている。	B	○小規模で陸上・駅伝の記録は素晴らしい。 ○休み時間異学年で外遊びをする児童をよく見かける。 ①食事の好き嫌いをの割合を減らすために、食育の授業の充実を図り、家庭との連携を強めていく。 ②次年度も各種体育行事の練習に参加する事を呼びかけ、体力向上の底上げを図っていく。	